

第47回(2024年度)全国JOCジュニアオリンピックカップ春季水泳競技大会【戦評】

会場：千葉県国際総合水泳場

【2025/3/30】

この試合のプレー集計

A決勝

長崎水球クラブ 8

2	—	0
2	—	1
2	—	2
2	—	1

4 高知スイミング

PSO

審判： 縄井 裕平
西澤 秀馬

長崎水球クラブ	15	SH数	13	高知スイミング
	2	速攻数	1	
	9	ST・SB	3	
	6	SH・P誘発アシスト	0	
	50%	GK阻止率	27%	
	5	EX反則数	5	

ST・SB:ボール奪取・SH阻止

【試合の流れ】

近年のジュニア水球発展の模範となりつつある長崎と高知。そうした成果が今年度では一気に開花した両チームの決勝戦は、夏JO決勝と同じカード。このことはジュニア水球界にとっても新しい時代の幕開けを予感させるものがある。ジュニアやユース世代一体となつての活動を展開する両県。指導者層もどんどん広がりを見せ、「高校水球」中心の強化普及とは一線を画した活動の成果をこの決勝戦で披露できるか。両チームともに攻撃時のゴール前での身体の使い方を中学や高校世代から学んでいて、パスを繰り出す選手への対応が勝負を決める形が予想される。

<1P>

長崎⑭中村のゴール前のボール保持プレー展開を高知側がどう阻止するか。対策を施した高知側だったが、2:45に長崎⑭中村が得意のプレーで先制点。さらに高知の遠目シュートを長崎GK①松永がブロックし、それを起点に1:47にも⑥本田がゴール前回し込みプレーで追加点をマーク。昨年の鹿児島原田学園といい、今年の長崎も、小学生ボールを活かしたゴール前プレー炸裂で長崎2-0高知という展開で第1ピリオド終了。

<2P>

ここも長崎⑭中村のボール保持プレーがキーに。長崎⑭中村が相手ボールを奪ってから前線へフィード。その際のボール保持プレーで退水を誘発。そこを自身で決めて3点目。このプレーを高知は止めることができない。しかし、高知は少ないチャンスでタイムアウトを取って、③窪内が1点を返す。しかし直後に長崎⑭中村の得意プレーでペナルティ誘発し、ブザービートシュートを決めて、長崎4-1高知で前半終了。

<3P>

サイドが変わってから高知が積極的に前に出る形で、センタボールからの流れで③窪内が、さらに長崎のパスミス起点に⑦吉田が退水を誘発し、③窪内が決めて点差を詰めた(長崎4-3高知)。しかし高知はここでやや力尽き、攻撃が続かない。そこを長崎がゴール前でペナルティ誘発(得点者⑭中村)。最後には速攻を長崎が切り出し、②松平が決めて、長崎6-3高知で第3ピリオド終了。

<4P>

長崎は⑥本田のゴール前ボール保持プレーでペナルティ誘発。そこを⑭中村が決めて長崎7-3高知と4点差に広げて安全圏に。高知は最後の粘りで④式地がペナルティ誘発。そこを⑦吉田が決めて4点目をマークするも、そこで試合終了。最終的には長崎8-4高知という結果で、長崎が夏春連覇を達成した。

近年の小学生チーム、特に九州勢が決勝進出するケースが増えてきたが、関西以東のチームとは違った水球を展開している。ボール保持したままゴール前まで持ち込み、2~3人のDFに囲まれても粘り続けてペナルティ誘発やシュートを決めるというスタイル。この水球ではたとえ攻撃が失敗しても相手が速攻を繰り出せない状況となるため、多くのジュニアチームが採用している「マイボールからの速攻」を封じることになる。泳ぎ合いでは不利になると考えた九州勢がそうした水球スタイルにいたったのかは定かではないが、この決勝の後半では高知も似たようなボール保持プレーを見せるなど、小学生水球スタイルの変化を感じた次第。